

# 日大土木会会報

発行：日大土木会広報部会

〒101-8308  
東京都千代田区神田駿河台1-8  
日本大学理工学部土木工学科内  
TEL：03-3259-0662  
FAX：03-3293-3319  
http://www.nu-dobokukai.com

## 土木系各学科・主任挨拶

日大土木会では平成二十五年度も土木系各学科（理工学部土木工学科・理工学部交通システム工学科・工学部土木工学科・生産工学部土木工学科）に対し僅かではありますが教育支援費を贈呈させていただきました。

新年度を迎えるに当たり、各学科主任より、日大土木会会員の皆様への挨拶及び学科の現状報告等の文章をいただきましたので、ここに掲載させていただきます。

本年度より、工学部土木工学科主任が堀井雅史先生から古河幸雄先生に、生産工学部土木工学科主任が工藤勝輝先生から伊藤義也先生にそれぞれ交代がありました。

また、生産工学部土木工学科の落合実先生（海岸工学）が本年四月より、日本大学生産工学部 学部長に就任されております。落合先生からは次号以降に執筆いただくことを予定しております。（最終面に生産工学部ホームページに掲載されている挨拶文を掲載しております。）

### 理工学部土木工学科

主任 野村卓史



#### ①主任教授挨拶

平成二十四年十月から土木工学科並びに土木工学専攻の主任を仰せつかっております。

土木教室の教育活動ならびに学生の就職支援に、日大土木会の会員の皆様をはじめ多くの校友の皆様の熱意ある多大なご支援とご指導をいただいておりますこと、心より厚く御礼申し上げます。今後とも引き続きご支援、ご指導を賜りますようお願いいたしますとともに、校友の皆様のますますのご活躍、ご発展を祈念しております。

#### ②学科の話題

昨春、平成二十五年四月から、理工学部の学科再編に伴い、土木工学科は「学年の定員を二百八十名から二百二十名に変更し、今年度は二年目になります。学生定員削減と入試志願者数の増加傾向があらわになって、入学者の学力レベルが上がってきております。カリキュラムの面では、引き続き土木の主要な分野に対応した「構造工学・地震工学」、「水工水理学」、「地盤工学」、「交通工学・国土計画」、「土木材料・力学一般」、「土木環境システム」の六分野の基礎を確実に身に付けさせることを柱に据えています。

た。大学院生は熱心に研究活動に勤しみ、学会等外部発表において優秀発表賞を受賞するなど活躍しています。また、昨年度も修士論文発表優秀者には、日大土木会より「日大土木会奨励賞」を授与していただいています。改めてお礼申し上げます。二十五年度の五名の受賞者名と論文題目は次のとおりです。相沢圭俊、都市鉄道ネットワークの脆弱性に関するリンク別評価」、五味傑「バランスド扁平アーチ構造の構造特性と解析モデルに係る研究」、瀬田和紀「一槽式微生物燃料電池の出力に

与えるアノード条件の相違による影響」、有馬勇人「東北地方太平洋沖地震津波に対する海岸保安林の減災効果に関する調査」、生越亮「東京圏の鉄道沿線郊外住宅地における高齢化の現状と対策について」。

た。公務員一〇五名、建設業八十二名、コンサルタント二十一名、運輸十一名ほか各方面に多くの学生を送り出すことができました。就職希望者の就職率は一〇〇%であり、理工学部でもっとも高い値になりました。教員組織の面では、徳江俊秀特任教授（地盤力学）、久保田進教授（海岸工学、測量学）、島崎敏一教授（交通計画）、高橋直己助手（水工分野）が昨年度末を以て退任されました。島崎教授は四月から特任教授として引き続き教育・研究に当たられます。

理工学部土木工学科のホームページ



一方、この四月には佐藤正己助教(材料工学)・三友奈々助教(都市計画)がそれぞれ助手から昇格し、二つの新しい研究室が誕生しました。初年度教育の重要性が増しており、専門以外にも測量実習や各演習等、若い教員を交えながら基礎力のある実践的な学生を育てて参ります。

理工学部

交通システム工学科

主任 佐田達典



交通システム工学科の教室主任を務めております佐田でございます。一昨年十月に教室主任を拝命し本年九月末までの任期となります。本学科は昨年四月に社会交通工学科から交通システム工学科へ名称を変更し、本年は二年目を迎えました。本学科

Screenshot of the department's website showing navigation menus, news, and contact information.

は一九六一年に交通工学科としてスタートし、これまでわが国で唯一の交通施設の計画、建設、そして管理・運営を行える技術者の育成を行う土木工学系の学科として教育・研究を進めてまいりました。しかしながら、近年の情報は、①高度情報技術を活用した高度交通システム(HITS)などに代表される高度な交通システムの理解と応用力の養成、②交通インフラの整備から管理の時代に直面する中で、環境・安全・福祉など多面的側面から捉え直していく創造力の養成、③個々の交通施設や交通機関が連携・統合した一つのシステムを構

社会的創出が求められております。学科としてもこのような状況に対応した教育と研究を展開していくことをより明確にするため、学科名称を交通システム工学科に変更いたしました。目標とするところは、①高度情報技術を活用した高度交通システム(HITS)などに代表される高度な交通システムの理解と応用力の養成、②交通インフラの整備から管理の時代に直面する中で、環境・安全・福祉など多面的側面から捉え直して

築していくマネジメント力の養成であります。学科名称は変更いたしましたが、土木工学に軸足を置く学科であることに変わりはありません。交通システム工学科にとりまして、教育、研究、就職活動などのあらゆる面におきまして、理工学部土木工学科殿をはじめとする土木会各学科との連携は不可欠ですので、これからも連絡を密にして進めさせていただきますと存じます。引き続きよろしくお願い申し上げます。

【学科の話】 学部生、大学院生の就職状況 につきましては、諸先輩方のご支援によりここ数年好調を維持しております。平成二十五年度の内訳は、公務員二十名、建設業三十七名、運輸三十七名、コンサルタント十二名などとなっております。また、平成二十六年新入生として学部生一三名、大学院生二十四名を新たに迎えることができました。教室人事として、平成二十五年度で田中絵里子助教、吉田庸助手が退職され、平成二十六年より稲垣具志助教、池田隆博助手、山中光一助手が採用されました。また、

工学部土木工学科

主任 古河幸雄



この平成二十六年四月から教室主任を仰せつかりました古河でございます。日大土木会には、工学部土木工学科に様々なご援助をいただき、心から感謝申し上げます。石の上にも三年という諺がありますが、お陰様で、震災以来三年が経過して工学部では落ち着きを取り戻し、入学試験の志願者・入学者数とも震災以前を上回る状況になって土木工学科の教員一同心をなで

下ろしているところでございます。平成二十六年前期の授業は四月十一日より開始し、フレッシュな学生がキャンパスにも自活生活にも慣れはじめて活力のある学園生活が見て取れるようになりました。平成二十六年度における教員の移動等はございませんので、昨年と同様の陣容で、これら学生を社会に貢献できる技術者として教育していきたいと思っております。今後ともご指導をよろしくお願い申し上げます。 さて、教員の活躍として土木工学科堀井雅史教授が、六月二十四日に福井大学地域域科学部で開催された二〇一三年度日本雪工学会総会において、二〇一三年度日本雪工学会学術賞を受賞しました。この賞は、最近五年間に日本雪工学会誌、日本雪工学会大会論文報告集、その他本学会の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する優れた論文を発表し、これが雪工学における学術、技術の発展に寄与するとともに、とりわけ独創的であると認められた者に授与される賞です。研究テーマは「冬季道路における路面温度予測モデ

とって大変貴重な財産です。交通システム工学科では、各学年の同窓会、各研究室でのOB・OG会などの開催を支援させていただいております。大学での開催を検討されている卒業生の皆さんは何時でも遠慮なく学科の方へご相談ください。お待ちしております。





工学部土木工学科のホームページ

ルの構築に関する一連の研究一です。
学生では、学会で優秀講演者の選ばれた学生が二名おられます。一人目は土木工学専攻二年の谷田貝航君です。発表学会は土木学会全国大会第六八回年次学術講演会で、講演題目は「間隙の再配分を考慮した液状化強度評価のための部分排水繰返しせん断試験」で、大地震後に起こる液状化現象のメカニズムの解明に迫った研究です。二人目は、土木工学専攻一年の森拓馬君です。発表学会は第一回日本

水環境学会東北支部研究発表会で、「PETボトルリサイクル工場排水を処理する多段型人工湿地の浄化性能」で、静岡県富士市にあるPETボトルのリサイクル工場の排水処理に使われている人工湿地の水浄化性能について研究です。
平成二十五年度の就職状況は、非常に良好で就職率一〇〇%を二年連続で達成し、工学部で最も高い内定率を得ることができました。公務員も多く、その中でも特に福島県や

県内の市役所に採用された卒業生には、福島県の復旧、復興に活躍してくれるものと期待しております。なお、工学部卒業の新人が先輩方の職場に配属されることもあるかと思えますので、その節はご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
最後にりましたが、工学部では、毎年北桜祭の開催時（平成二十六年十月二十六日）にあわせ「母校を訪ねる会」を実施しています。今年度は、昭和三十、四十九、五十九、平成六、十六年の卒業生が該

Production Department of Civil Engineering. Chairman: Iwamoto Yoshi. Text: 当します。該当される卒業年の会員の皆さん、ご出席をお待ちしております。

Production Department of Civil Engineering website screenshot. Includes navigation, department info, and a list of notices.

生産工学部土木工学科のホームページ

もひとえに、土木学会の大会運営委員会の皆様方、並びに日大土木会の会員のご協力およびご支援の賜と深く感謝いたしております。
九月八日にはご存じのように、二〇二〇年のオリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定し、土木界がインフラ施設の強化や観光立国に向けての景観整備、防災技術など大きく注目されることとなりました。このような状況下で三月に二七六名が卒業いたしました。就職の内訳は、建設業五六%、コン

サルタント二%、公務員一二%、製造・小売・自営業九%、進学十一%であります。日大土木会の皆様、校友会の諸先輩の就職のご支援に御礼を申し上げます。
卒業生へのご指導を賜りますよう重ねてお願いいたします。

②学科の近況報告
今春、前学部長が平成二十六年三月三十一日付けで辞任するに伴い、学部長候補者選挙が去る一月三十日に行なわれ、その結果、土木工学科 落合 実 教授が教職員

多数の支持を得て選任され、四月一日に新生産工学部長に就任致しました。落合先生は生産工学部、大学院生産工学専攻、出身のいわゆる生え抜きであります。日大土木会の方々のさらなる応援とお力添えが必要ですので今後とも、宜しくお願い申し上げます。
また、土木工学科では平成二十六年に新しい教員を二名お迎えしております。
お一方は、木下誠也教授であります。木下先生は



昭和五十一年東京大学工学部 土木工学科を卒業、昭和五十三年東京大学大学院工学系研究科 土木工学 修士課程 修了後に三十一年度の行政経 験（建設省、国土交通省）を 経て、愛媛大学防災情報研究 センターの教授を三年四か月 勤められ、本年四月にお招き いたしました。専門は、建設 マネジメント、社会資本の整 備・管理、防災・危機管理な どであり、実務経験を踏まえ た実践的な研究・教育を担当 いただくこととしておりま す。

もうお一方は、本学大学院 総合科学研究科環境科学専攻 を修了の中村倫明助手です。 中村先生は、東電環境エンジ ニアリング株式会社（現；東 京パワーテクノロジー株式会 社）に勤務され、発電所建設 及び港湾工事における環境影 響について、調査・研究を行 なわれてきました。学生の目 線にたつて、後輩を指導して いただくとともに研究面でも 引き続き活躍していただき たいと思います。

カリキュラムでは引き続 き「技術者としての将来を楽 しみにする教育」の具現化を 目的にカリキュラム全体を見

渡したキャリアデザイン教育 とエンジニアリングデザイン 教育の体系化を進めておりま す。キャリアデザイン教育は、 導入教育として一年時の「土 木ゼミⅠ」、二年時には「キャ リアデザイン」および「キャ リアデザイン演習」により必 修科目である三年時の生産実 習、四年時の卒業研究に連携 連結した体系化を進めてきま したが、現在は土木工学科が 進めていた初年次導入教育の 「初年度ゼミⅠ」が学部全体 の各科共通科目の必修科目と して「初年次ゼミ」「二年次 ゼミ」がこの科目のキャリア デザイン教育の体系化に導入 されております。

エンジニアリングデザイン 教育は一年次に設置されてい る「プロジェクト演習Ⅰ」で は「土木教育が実社会でいか に活用されているのか」を体 験的に学ぶため、与えられた 資材と器具で規格内のソイル タワーを完成させるコンテス トを開催しており、学生の失 敗体験による気づきから学生 の課題の発見と解決力の育成 を図っています。



日本大学生産工学部  
College of Industrial Technology, Nihon University

ホーム | 交通案内 | サイトマップ | お問い合わせ | 資料請求 | 文字サイズ | 大 | 中 | 小

ENGLISH

日本大学のHPはこちら

Google Custom Search

検索

生産工学部で学びたい方

在校生・卒業生の方

企業・研究機関関連の方

一般の方

LIT 一般の方

生産工学部について

学生生活

入学案内

大学院

研究・産学交流

就職支援・資格

生産工学部について

トップ > 生産工学部について > 学部概要 > 学部長のメッセージ

学部概要

学部概要 | 学部長のメッセージ

- ▶ 学部長のメッセージ
- ▶ 生産工学部の沿革
- ▶ 教育目標
- ▶ 教育方針
- ▶ 各学科の目的
- ▶ 各学科のディプロマポリシー
- ▶ 各学科のカリキュラムポリシー
- ▶ 各学科のアドミッションポリシー
- ▶ カリキュラムの特徴
- ▶ 専門教育の特徴
- ▶ 学習の手引き
- ▶ 卒業（修了）要件
- ▶ 学部データ
- ▶ 教員紹介

学科紹介

学習支援

行事・イベント

教育情報

各種申請・手続

その他



## 未来を創る人たちへ

日本大学生産工学部は平成24年に学部創設60周年を迎え、新たな時代への第一歩を踏み出しました。

本学部は日本大学の理工系学部の中でも最も産業界に近い位置にある学部です。生産工学・生産技術において、特に高度情報技術に対応する安全性や倫理性を身に付けた生産システムを構築できる優れた管理技術者を目指す有望な人材の育成を目指しています。そのためキャンパス環境を有すると共に、大学で学んだ知識と社会との関連を知る目的で、企業や学外の研究機関や行政機関などで実習を体験する「生産実習」（インターンシップ）を学部創設以来必修科目として設置し、他大学に比べ就職率の高さや離職率の低減につながっています。

また、第一線で活躍している企業人を積極的に教授陣に迎え、実学教育を徹底させております。更に、新しい技術が自然環境に及ぼす影響などを総合的に判断することのできる幅広い教養とコミュニケーション能力、高度情報化やグローバル化に対応できる能力、生産過程の効率化を図るマネジメント能力を含めた総合的な経営管理能力を有する技術者の育成に努めています。同時に、国際的に活躍できる技術者を育成するため、1年次からTOEICの得点アップを目指した少人数教育、そして、英会話に強くなりたいと思う学生に対して英会話連続講座やEnglish caféを実施しています。

本学部は開かれた大学として、地域社会への文化的支援と交流を深めるために公開講座や公開セミナーを積極的に開講しております。これらは、文部科学省による生涯学習推進の方針を受けて、近隣の市教育委員会後援のもとに開講されており、本学部が独自に集積した学術的成果や専門的技術の一部を披露・発表すると共に、学外からの招聘講師の講演を通じて、より広範に社会的に注目されている専門的諸知識を提供することを目的としております。同時に、いくつかの自治体の協力を得て市民環境大学を開講し、好評を得ています。

生産工学部は、研究・教育は勿論、種々のキャンパス環境の更なる充実を図り、国際社会で真に活躍できる「役に立つ技術者」の育成を目指しておりますので、各界各位のご理解、ご支援を心より宜しくお願い申し上げます。



日本大学生産工学部  
学部長 落合 実

落合実 新生産工学部学部長の挨拶（生産工学部のホームページより）